



闇を刻む詩人

日和崎尊夫

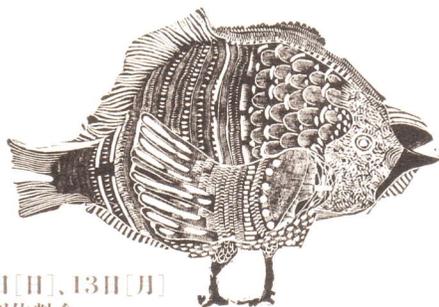
木口木版画の世界

1995年10月10日[火]→11月19日[日]

【開館時間】午前9時～午後5時<入館は4時30分まで>

【休館日】10月16日[月]、23日[月]、30日[月]、11月6日[月]、7日[火]、12日[日]、13日[月]

【入館料】一般200[160]円／小中学生100[80]円 ※[]内は20名以上の団体料金



渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-3465-9421 井の頭線「神泉駅」下車徒歩5分、「渋谷駅」下車徒歩15分

上:KALPA NO.3 1970年
下:鳥魚 1965年

日和崎尊夫(1941-1992)は、戦後まったく衰退していたわが国の木口木版画を独習し復活させました。

もともとは、書物や活字に従属し印刷に供されていたこの技法を、個の表現として追究して来たことは高く評価されています。また、60・70年代の質的に大きく変わる美術状況のなかで彼はむしろ異端の存在であったにもかかわらず、時流に逆らうかのような抵抗のなかに緊張感を孕みつつ自らの制作を究めたのです。宿命的なまでに木口木版の制作と普及に傾注した彼の影響を受け、この技法をつかう後進が幾人も生まれ、木口木版に確固とした位置をもたらしたことから、日和崎の存在の大きさが窺えます。

その作品は小さな黒一色の画面のなかに

闇を刻む詩人

日和崎尊夫

木口木版画の世界



版木(詩画集「朧」、1970年より)

ピュランで刻み込んだ微細な白描が、無限の増殖を繰り返すイメージをもっています。カルパという概念は日和崎が常に持ちつづけた世界であり、暗い宇宙の闇から星の光芒がさしこむような悠久の時と空間を感じさせるとともに、それは深遠なる精神世界の表現でもあります。そうした「KALPA」、「海潮の薔薇」などの代表的なシリーズの一方で、『朧』『緑の導火線』など密度の高い詩画集も制作し、彼の本質が詩によって育かれたことを物語っています。

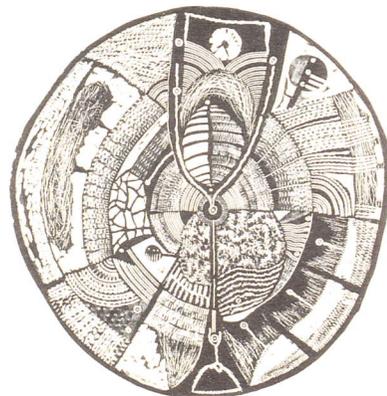
本展では、生涯約500点におよぶ版画作品を網羅し、あわせて版木・ピュランなど制作道具等も展示する、日和崎尊夫の初の回顧展となります。



KALPA 誕生 1971年



海潮の薔薇 1972年



塔の中の耳 1966年

木口木版画は、一般的な木版画が版として板目材を使うのにならして、この技法は樹木を輪切りにした木口を版材とします。椿、ツゲなどの堅い樹をつかいピュランで刻むため小画面に精巧で緻密な表現が可能とされる技法です。18世紀末に英国で考案され、おもに書籍・雑誌の挿絵として出版物に使われ発展しました。わが国でも明治中期に導入され印刷目的で隆盛しましたが、明治末にははやくも衰退していきます。それ以後の作例は少なく、戦後では制作する作家はわずしかいませんでした。



アトリエの制作道具



詩画集「緑の導火線」 1982年

講演会
10月14日(土)午後2時～

「日和崎尊夫と木口木版画」 柄澤齊<版画家>

美術映画会
10月21日[土]、11月4日[土]、11月18日[土] 午後2時～

「版画家・小林敬生 一点中継・つくる」「萩原英雄 美の世界」

美術相談
10月28日(土)午後2時～4時 講師＝磯村敏之(洋画)、戸田康一(日本画)
11月11日(土)午後2時～4時 講師＝広畑正剛(洋画)、宮田翁輔(洋画)

〒150 東京都渋谷区松涛2-14-14 TEL.03-3465-9421 2-14-14, SHOTO, SHIBUYA-KU, TOKYO
井の頭線「神泉駅」下車徒歩5分、「渋谷駅」下車徒歩15分



渋谷駅下車徒歩15分/神泉駅徒歩5分